

弘前市における若年層の地域移動

日比野愛子

平井太郎

石岡学

弘前大学人文学部

弘前大学大学院地域社会研究科

弘前大学人文学部雇用政策研究センター



平成25年度弘前大学と弘前市との連携調査研究委託モデル事業成果発表会

平成26年3月18日（火） ヒロロ4階弘前市民文化交流館ホール

若者は、どこに行くのか



The Brain Drain:
Why Japanese Youth
Move to Tokyo

「東京」に

出る

若者たち

仕事・社会関係・地域間格差

石黒格李 永俊 杉浦裕晃 山口恵子 著

ISBN 978-4-15-201111-0

ミネルヴァ書房

目的

- 弘前の若年層（20代－30代）の地域移動の実態を把握する。
 - どれくらいの若者が
 - どこに行くのか
 - どこから来ているのか
- 地域の持続可能性の観点から、若年層の定着に向けた政策課題を検討する。

方法

- 国勢調査の個票データ分析
(平成12年度)
- 住民票移動時のアンケート分析
- 高等学校進路指導担当教員へのヒアリング調査

1.1 若年層の移動実態

平成22年国勢調査結果にもとづく弘前市の人口増減

年齢階級	常住者	転入	転出	差
15～19歳時と 20～24歳時の比較	10,236	3,634	3,099	+ 535
20～24歳時と 25～29歳時の比較	8,953	1,823	3,490	△1,667
25～29歳時と 30～34歳時の比較	10,095	1,850	2,017	△ 167

【参考1】弘前市全体では、常住者183,473名転入者16,594名、転出者16,833名であり、人口は239名減

【参考2】国勢調査では、幅広い年齢時点の転出入が混在している。

1.2 若年層の1年間の移動実態

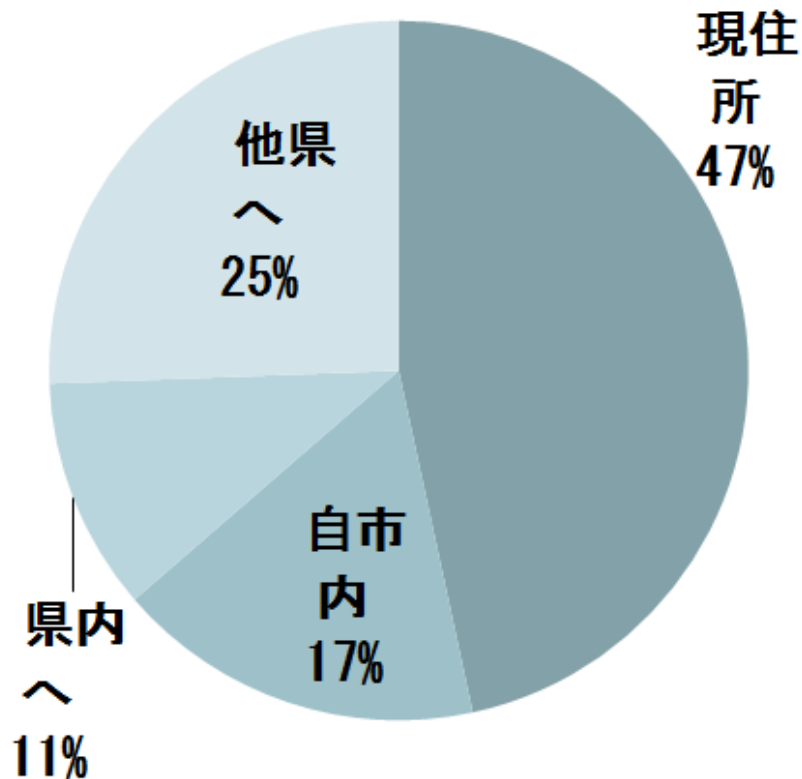
平成25年度 弘前市住民票移動時アンケート調査より

年齢階級	転入	転出	差
10代後半合計	464	516	△ 52
20代前半合計	653	1121	△ 468
20代後半合計	570	732	△ 162

2.1. 転出の概況

弘前在住の15～19歳の若者が、
5年後どこに住んでいるか

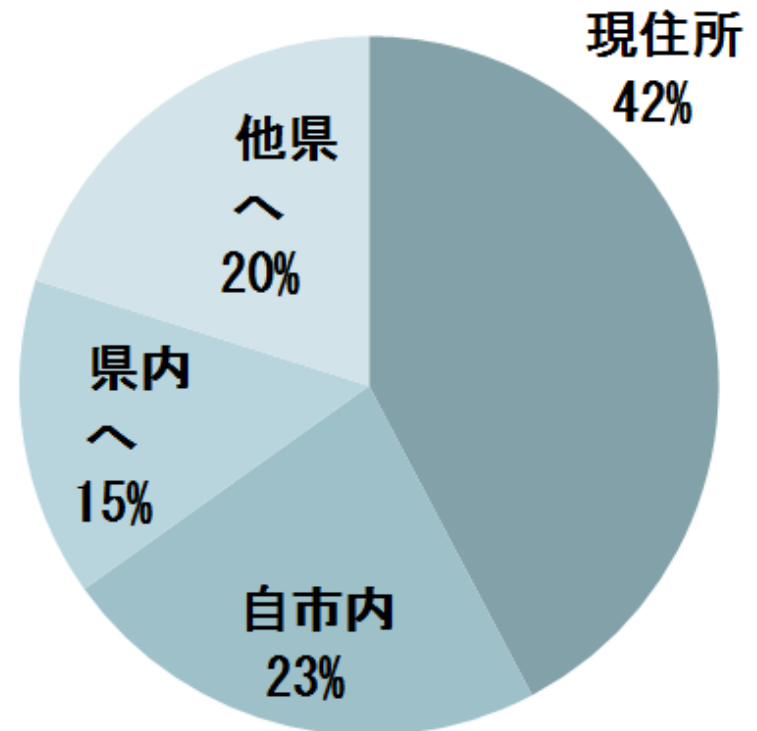
高卒時移動



N=13080

弘前在住の20～24歳の若者が、
5年後どこに住んでいるか

大卒時移動



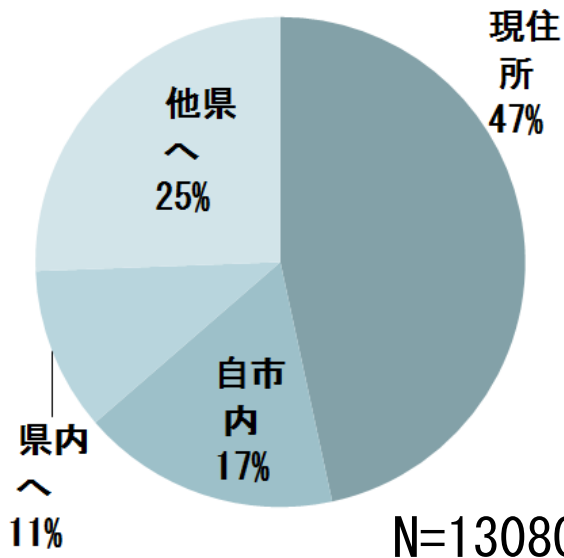
N=13090 (平成12年度調査)

2.1. 転出の概況

弘前在住の15～19歳の若者が、5年後どこに住んでいるか

高卒時移動

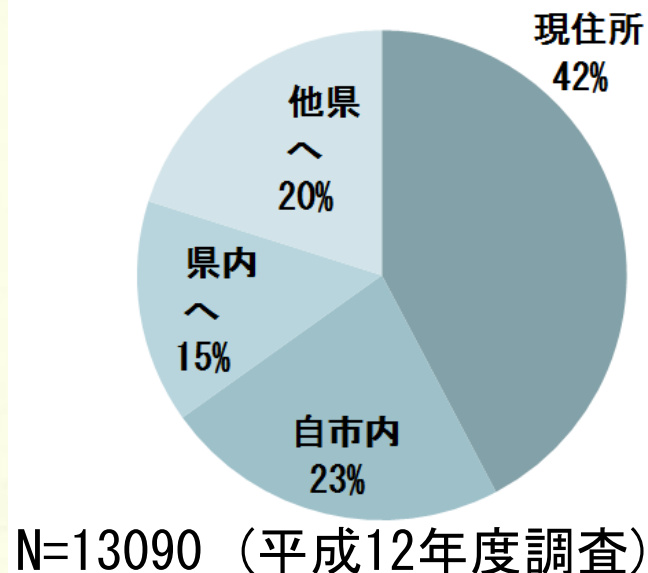
北・東北	12%
関東	11%
その他	3%



弘前在住の20～24歳の若者が、5年後どこに住んでいるか

大卒時移動

北・東北	12%
関東	6%
その他	3%



2.2. サービス業

弘前在住の15～19歳の若者が、5年後どこに住んでいるか

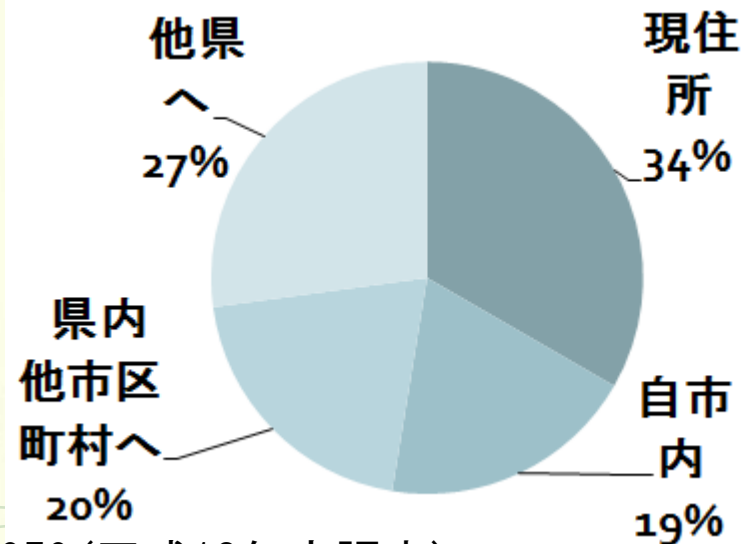
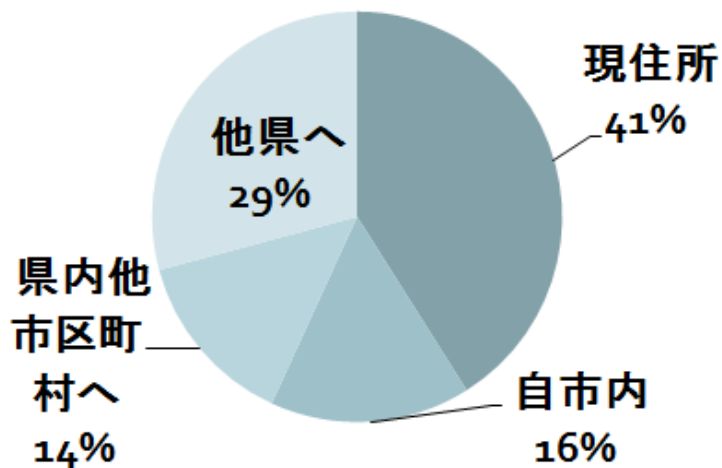
高卒時移動

北・東北	16%
関東	11%
その他	2%

弘前在住の20～24歳の若者が、5年後どこに住んでいるか

大卒時移動

北・東北	16%
関東	8%
その他	4%



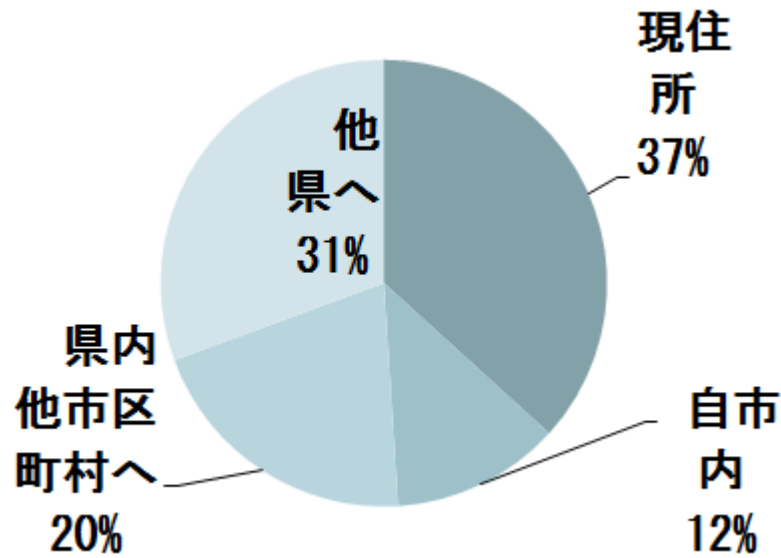
N=3290 N=4050 (平成12年度調査)

2.3. 公務員

弘前在住の15～19歳の若者が、
5年後どこに住んでいるか

高卒時移動

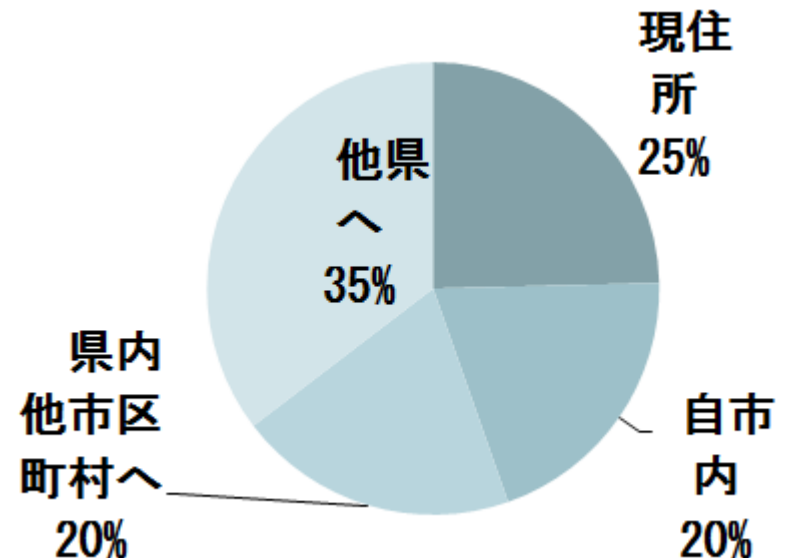
北・東北	23%
関東	6%
その他	2%



弘前在住の20～24歳の若者が、
5年後どこに住んでいるか

大卒時移動

北・東北	29%
関東	3%
その他	2%



N=480

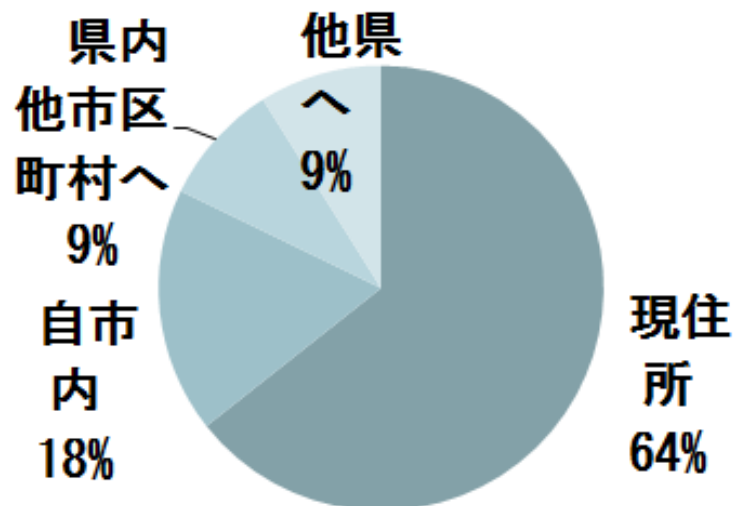
N=660 (平成12年度調査)

2.4. 完全失業者

弘前在住の15～19歳の若者が、5年後どこに住んでいるか

高卒時移動

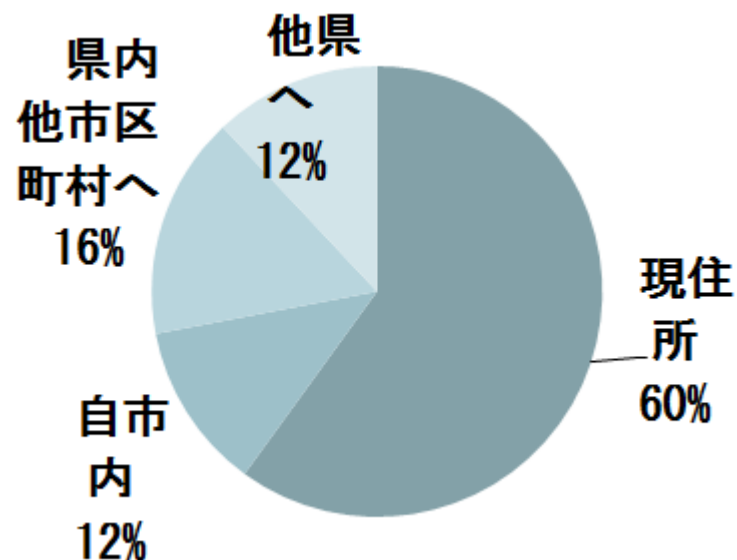
北・東北	4%
関東	4%
その他	1%



弘前在住の20～24歳の若者が、5年後どこに住んでいるか

大卒時移動

北・東北	8%
関東	4%
その他	0%

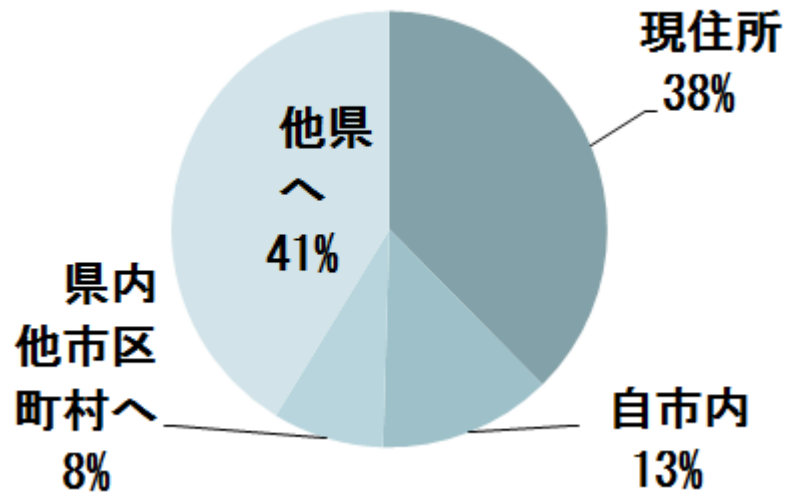


2.5. 通学者

弘前在住の15～19歳の若者が、
5年後どこに住んでいるか

高卒時移動

北・東北	20%
関東	15%
その他	6%



N=1020 N=750 (平成12年度調査)

【参考】

高校進路指導担当教員へのヒアリング・アンケート調査より

- 主に経済的状況の理由から、地元進学を希望する親・生徒が増えている。
- 人材流出に対する葛藤は、あまり顕在化していない。

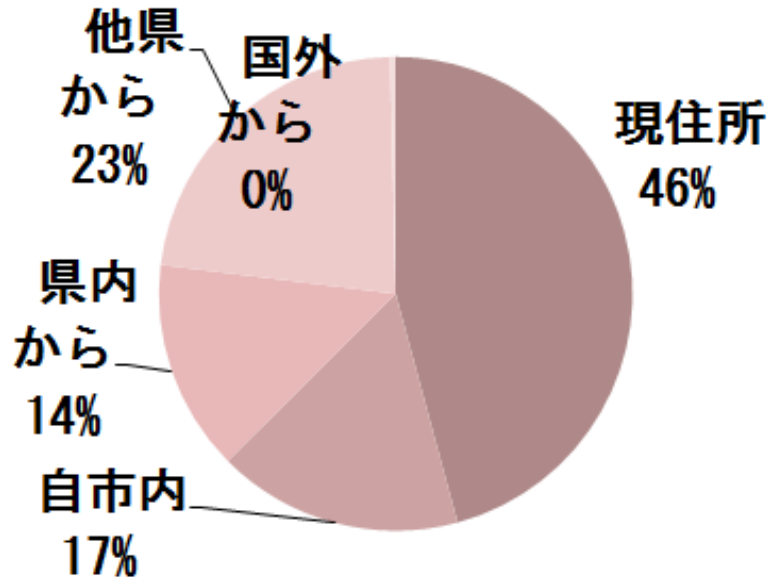
青森県の高校学力別移動先の分析より

- 偏差値上位校では、半数ほどが東京の大学に進学しているのに対し、中位校では約6割が県内の大学に進学。

2.6. 転入の概況

弘前在住の20～24歳の若者が、5年前にどこに住んでいたか

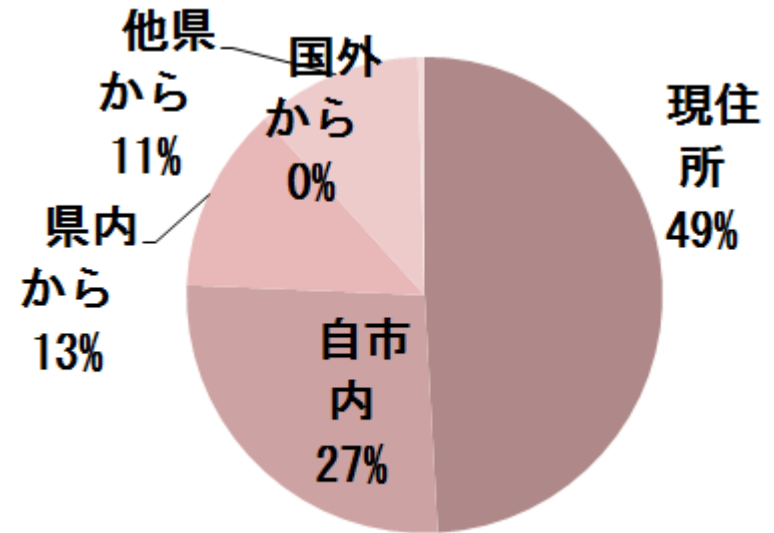
高卒時移動



N=13320

弘前在住の25～29歳の若者が、5年前にどこに住んでいたか

大卒時移動



N=11260 (平成12年度調査)

2.7. 転入者の労働力状態

- 転入者が多く就いている職種
 - 卸・小売業 (全2120人中、転入者19%、10代後)
 - サービス業 (全2480人中、転入者11%、10代後)
 - とくに転入者が占める割合が多いもの
 - 通学者 (全3720人中、転入者52%、10代後)
 - 完全失業者の比率は、現住所のままの人の中で、20代前半11%、20代後半8%と、高くなっている。
- 現住所のままの人の失業率が高い

まとめ

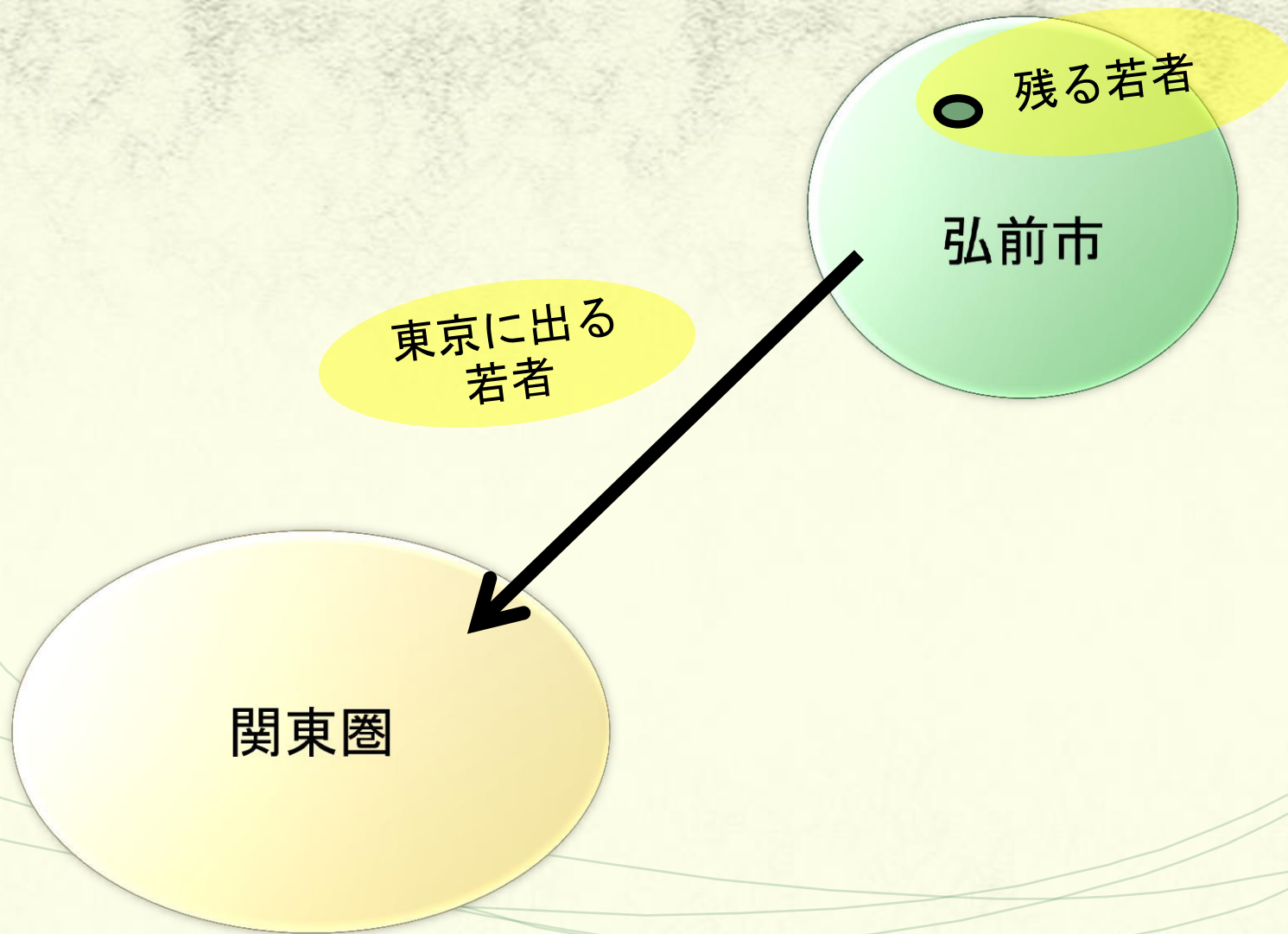
- 弘前市の若年層のうち、約8割が地元に残り、約2割が地元を離れている。
- 転出者の行く先は、北海道・東北≧関東圏
- とくに大卒時移動では、北海道・東北への移動が多い（転出者のうち約6割）。
- 弘前市の若年層のうち、1割～2割が、他県から転入。
- 自宅にとどまり続ける若年層の方が、完全失業者の割合が高い。

検討① 地元へ「戻る」若年層

- 弘前の周辺道県（北海道・東北）から進学によって弘前に移動してきた若年層が、彼・彼女らの地元に戻って就職している、というのが、大卒時移動の実像に近い。



- 地元志向の強い北海道・東北地方出身進学者に対する弘前定住施策は、効果が薄いのではないか。
- ただし、大学進学者の出身地構成が大都市圏にシフトすれば、その限りではない。



北海道・東北圏

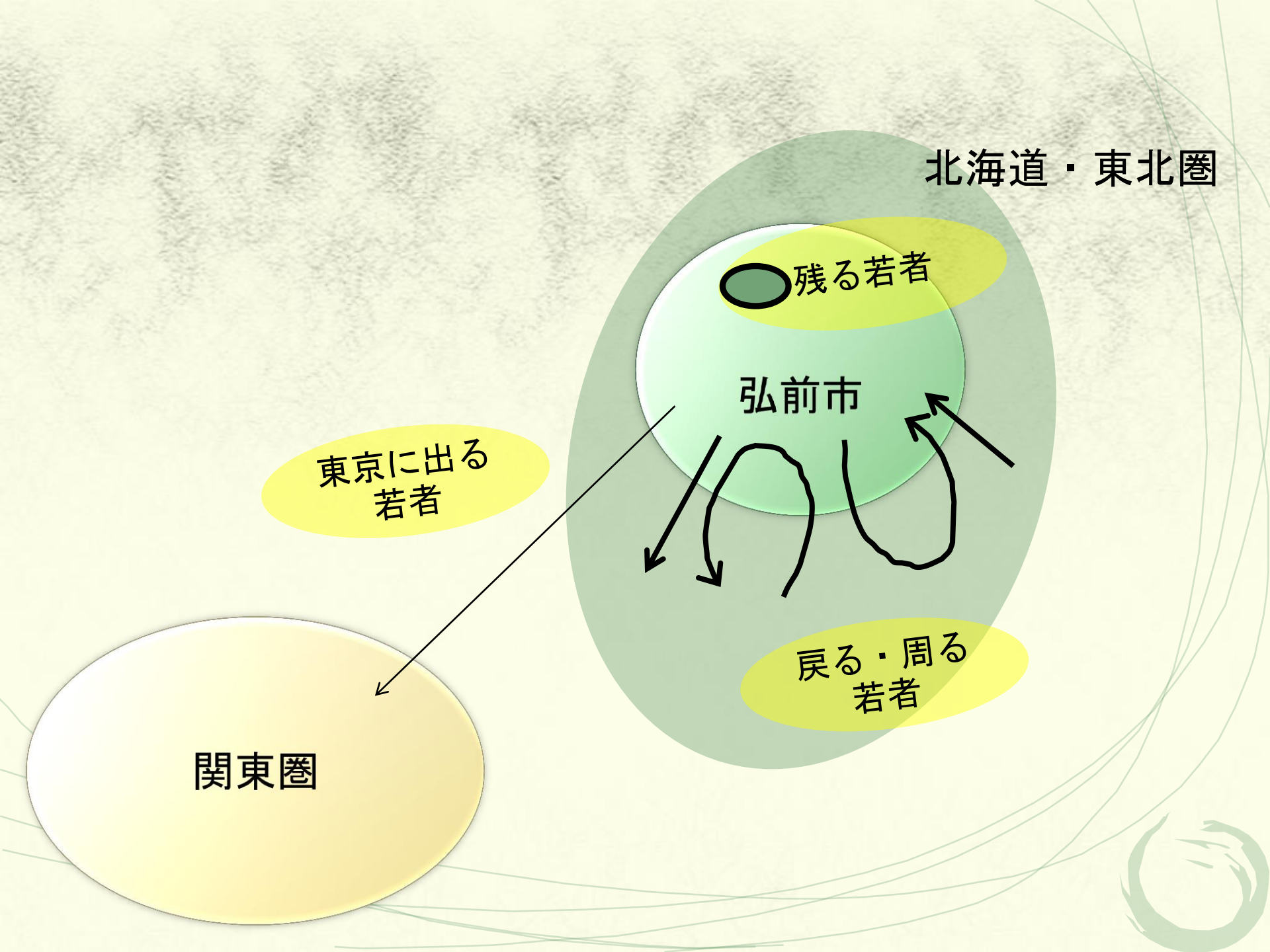
○ 残る若者

弘前市

東京に出る
若者

戻る・周る
若者

関東圏



検討② 地元「残る」若年層

- 現住所のままの人の失業率が高い。
↓
- 「転出先で失業し出身地に帰る」若年層は、それほど多くないかもしれない。
- 学歴や収入が低い若年層が残りがちではないか。
- 地元在住を続ける層にターゲットを絞った支援策を考えることが重要ではないか。

検討③ 「チャンネル」の確保

- 高卒時就職・大学進学では、関東圏への転出も比較的多い。
- 進路指導の場面でも、若年者が東京に移動することは問題視されていない。
- 現在の就職・就学機会の地域間格差を前提とすると、学歴・資格の向上策は、むしろ大都市圏への流出につながるかもしれない。
- 外の世界とのチャンネルの確保
 - 大都市圏から人を呼び込む政策の可能性。

御静聴ありがとうございました。

